

執筆者紹介

* 執筆順。①所属・職位, ②専門分野, ③主要業績

杉野 勇 (すぎの いさむ) [編者] 序章・第2章・第5章・終章

①お茶の水女子大学基幹研究院教授

②社会調査方法論, 法社会学

③『現代日本の紛争過程と司法政策——民事紛争全国調査2016-2020』(共著) 東京大学出版会, 2023年。

『法の経験的社会科学の確立に向けて』(共著) 信山社, 2019年。

『入門・社会統計学——2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』法律文化社, 2017年。

平沢和司 (ひらさわ かずし) [編者] 序章・第1章

①北海道大学大学院文学研究院教授

②教育社会学, 社会階層論

③『格差の社会学入門〔第2版〕——学歴と階層から考える』北海道大学出版会, 2021年。

『入門・社会調査法〔第4版〕——2ステップで基礎から学ぶ』(共編著) 法律文化社, 2021年。

『教育と社会階層——ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差』(共編著) 東京大学出版会, 2018年。

歸山亜紀 (かえりやま あき) 第1章

①群馬県立女子大学文学部准教授

②労働社会学, 社会調査法

③『職場における自律性が仕事の満足度と与える影響——前橋市・玉村町住民サーベ
イの分析から』『群馬県立女子大学紀要』40: 53-64, (共著) 2019年。

『コンピュータ支援調査におけるモード効果の検証——実験的デザインにもとづく
PAPI, CAPI, CASIの比較』『理論と方法』30(2): 273-92, (共著) 2015年。

『予備調査としてのインターネット調査の可能性——変数間関連に注目して』『社会
と調査』12: 46-61, (共著) 2014年。

小林大祐（こばやし だいすけ） 第3章

①金沢大学人間社会研究域人文学系教授

②社会意識論，社会調査法

③『就職氷河期世代』の格差意識』『人生中期の階層構造』東京大学出版会，215-234，2021年。

『2015年SSM調査報告書9 意識2』（共編著）科学研究費補助金成果報告書，2018年。

「階層帰属意識における調査員効果について——個別面接法と郵送法の比較から」『社会学評論』66(1)：19-38，2015年。

轟 亮（とどろき まこと） 第4章

①金沢大学人間社会研究域人文学系教授

②社会調査法，社会意識論

③“Evaluating the Quality of Online Survey Data Collected in 2018 in the USA: Univariate, Bivariate, and Multivariate Analyses,” *International Journal of Japanese Sociology*, 30: 140-62, (Co-authored) 2021.

「生活満足度からみる現代の若者と高校生の姿」『高校生たちのゆくえ——学校パネル調査からみた進路と生活の30年』世界思想社，173-92，2018年。

「階層意識の分析基軸——価値意識を中心として」『現代の社会階層3 流動化の中の社会意識』東京大学出版会，79-91，2011年。

尾嶋史章（おじま ふみあき） 第6章

①同志社大学社会学部教授

②社会階層研究，教育社会学

③『高校生たちのゆくえ——学校パネル調査からみた進路と生活の30年』（共編著）世界思想社，2018年。

『現代の階層社会 [1] 格差と多様性』（共編著）東京大学出版会，2011年。

『現代高校生の計量社会学——進路・生活・世代』（編著）ミネルヴァ書房，2001年。